

4 学校教育計画

項目		目標・方針、及び計画	
1	学習指導 重点1 重点1	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領、本校の教育目標、学校課題設定の趣旨をふまえて、調和のとれた教科学習、教科以外の教育活動の活性化を図る。 ・特に、総合制高校の利点を生かして教科・科目の選択の幅を広げるなど、生徒の能力・適性・進路を考慮した教育が行えるように編成する。 ・学習指導内容の精選に努め、基礎学力の定着を図る。 ・集団指導の長所を生かしながら、個別指導に配慮し、各生徒の個性・能力の伸長を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科および体育コースでは、日頃の授業を最重点におき、予習・復習による基礎学力の定着に努め、個別指導などによって、生徒個々の学力の向上を図る。また、生徒個々の進路に応じたきめ細かい指導を徹底する。 ・工業科では、生徒の個性に応じた効率的な学習が意欲的に展開されるよう配慮する。また、1学年では基礎科目を共通して履修させ、2学年から専門教科で選択制を取り入れる。選択科目の特色を生かした学習活動を展開し、目的意識を明確にし、幅広い生徒の進路に対処する。 ・商業科では、多様化する生徒の実態を把握し、科目の指導内容の厳選、充実に努める。また、教員の現職研修の機会および県内外の学校・企業視察の機会の拡充を図り、施設・設備の充実・活用に努める。 ・学習実態を把握するための調査を実施し、分析することにより効果的な方策をたてる。 ・互見授業をはじめ、教科内研究や ICT 機器を活用した研修などにより、学習指導力向上に関する研究を行う。 ・課題意識を持たせ、生徒の自主的な学習意欲の向上に留意する。 ・補習授業や個別指導などにより、大学等への進学者に対する学力の向上を目指す。
2	学校生活 重点2 重点2	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人格のよりよい発達を図る。 ・あらゆる教育活動の機会において、生徒の基本的な生活習慣の育成、安全指導の徹底に努める。 ・保健・安全の充実に努め、学習・教育環境の整備に努めて、生徒および教職員が心身の健康を保ちながら快適な学校生活を送れるようにする。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の出欠・遅刻等の確認を行い、家庭との連絡を密にする。 ・定期的に教職員・生徒による登校指導を行い、朝のあいさつ・服装頭髪等の乱れに注意する。また、定期的に、服装・頭髪指導を実施し、指導の徹底を図る。 ・通学実態を踏まえた交通安全指導、自動車運転免許取得に関する指導、交通安全講話、生活指導講話等を実施し、安全意識の育成・向上に努める。 ・SNS の正しい知識を身に付けさせるため、各種講話を実施し、トラブル防止に努める。 ・あらゆる教育活動を通じて「自覚と責任」を持てるように「自ら律する」姿勢を育てる指導に努める。 ・生徒の保健管理と保健指導の徹底を図る。 ・ライフスキルトレーニングを実施して、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。 ・教職員のカウンセリングスキルの向上に努める。 ・特別な支援が必要な生徒に対して、教職員の共通理解を図りながら適切な指導を行う。 ・学習・教育環境の整備促進に努める。

3	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生徒が、自己の進路に関する探求的・体験的活動を通して、自らの進路に対して主体的に取り組む能力と態度を育成する。 自己のライフプランのもとに、進路を選択・実現し、卒業後のキャリアにおいて自己実現を図ることができるよう、計画的・継続的に指導・援助する。
	重点3	計画	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム活動や「総合的な探究の時間」などの集団的活動場面の指導と、進路相談等の個別指導との連携を図り、生徒一人ひとりの成長・発達に配慮した進路指導を行う。 校内外の機関の協力のもとに進路ガイダンスをきめ細かく実施し、目的意識がもてるように指導・援助する。 日常の教科指導を重視し、学力の充実・伸長を図る。 定期考査、実力テスト等を通じて自己の学力を客観的に把握させ、その向上に努めさせる。 受験に必要な教科科目の学習、小論文指導、面接指導などについて共通理解を図り、教職員全体で協力してより効果的、効率的な指導を行う。
	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性・自発性の育成により、集団生活の充実と向上を図る。 諸活動を通じ、自ら考え、自ら行動する姿勢を育成し、社会の一員としての健全な生活態度を身に付けさせる。
	重点4	計画	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育における知的活動の基礎として、各教科との連携を保ちながら、読書及び課題解決学習に関する指導や援助を行う。 生徒自らが感性を磨き、知的世界が構築できるよう読書指導をする。 生徒会や委員会の活性化を図り、全生徒の生徒会行事やボランティア活動への積極的参加を図る。 1年生は全員部活動に加入させ、部活動の一層の活性化を図る。また、3年間継続するよう指導を行い、より充実した高校生活を送ることができるようにする。 課題解決学習での図書の利用、進路指導に対応した読書指導など、各教科と連携を深めながら、図書部のレファレンス機能を充実させ、生徒の知的探究活動の役割の一端を担う。 各種行事の内容を工夫するなど、図書委員会の活動を充実させ、生徒の図書への親しみを促す。 校内における知識、情報の集積センターとしての機能をもたせる。
5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> 「開かれた学校づくり」を目指して、保護者、同窓生、地域社会との緊密な関係を作るとともに、校内での綿密な調整をはかる。
	重点5	計画	<ul style="list-style-type: none"> 育友会や同窓会の活動を効果的なものになるよう促し、活動に参加しやすい土壌を培う。 育友会会報「いくゆう」の誌面を工夫し、生徒の日常活動や教育をめぐる情勢などを幅広く紹介して保護者の関心を高める。 同窓会活動の維持、発展を図り、会計基盤の充実をはかる。